

監事監査規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、公益財団法人緑の地球防衛基金（以下「この法人」という。）の定款第34条第2項に基づき、監事の監査に関する基本的な事項を定めたものであり、監事の監査は、法令及び定款に定めるもののほかはこの規程による。

(基本理念)

第2条 監事は、この法人の機関として、理事と相互信頼の下に、公正不偏の立場で監査を行うことにより、この法人の健全な経営と社会的信頼の向上に努め、その社会的責任の遂行に寄与するものとする。

(職能)

第3条 監事は、理事の職務の執行を監査し、理事の職務執行に適法性を欠く事実又はそのおそれのある事実若しくは著しく不当な事実を発見したときは、評議員会及び理事会に対し遅滞なく報告しなければならない。

(業務・財産調査権)

第4条 監事は、いつでも、理事及び関係部門に対し事業の報告を求め、又はこの法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(理事等の協力)

第5条 監事が、前条の職務を遂行する場合は、理事又は関係部門の責任者はこれに協力するものとする。

第2章 監査の実施

(監査事項)

第6条 監事は、監査事項について、調査・閲覧・立会・報告の聴取等により監査を行うものとする。

(会議への出席)

第7条 監事は、評議員会及び理事会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。

2 監事は、前項の会議に出席できなかった場合には、その審議事項について報告を受け、又は議事録、資料等の閲覧を求めるものとする。

第3章 監事の意見陳述等

(理事会等に対する意見陳述義務)

第8条 監事は、理事の職務の執行又はその他の者の業務上の行為が法令・定款に違反し、若しくは違反するおそれがあるとき、又は著しく不当であると認めるときは、評議員会及び理事会に報告しなければならない。

2 監事は、前項に規定する場合において、必要があると認めるときは、理事長に対し理事会の招集を請求し、又は自ら理事会を招集することができる。

3 監事は、業務の遂行に当たり、この法人の業務の適正な運営・合理化等又はこの法人の

諸制度について意見を持つに至ったときは、理事長に対し、意見を述べることができる。

(差止請求)

第9条 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令・定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、これによりこの法人に著しい損害を生ずるおそれがあるときには、その理事に対し、その行為の差止めを請求することができる。

(理事の報告)

第10条 監事は、理事がこの法人に著しい損害が発生するおそれがある事実を発見したときは、その事実の報告を受けるものとする。

(会計方針等に関する意見)

第11条 監事は、理事長が会計方針及び計算書類等の記載方法を変更する場合には、予め変更の理由について報告するよう求めることができる。

2 監事は、会計方針及び計算書類等の記載方法について疑義があるときは、理事長に意見を述べることができる。

(評議員会への報告)

第12条 監事は、理事が評議員会に提出しようとする議案及び書類について違法又は著しく不当な事項の有無を調査し、必要な場合には評議員会に報告する。

(評議員会における説明義務)

第13条 監事は、報告事項に関し、評議員会において評議員が質問した事項については、議長の議事運営に従い説明する。

(監事の任免・報酬等に関する評議員会における意見陳述)

第14条 監事は、その選任・解任及び報酬等について、評議員会において意見を述べるることができる。

第4章 監査の報告

(計算書類等の監査)

第15条 監事は、理事長から事業報告書及び計算書類並びにこれらの附属明細書を受領し、これらの書類について監査事項を監査する。

(監査報告)

第16条 監事は、日常の監査を踏まえ、前条の監査を経て、法令の規定に従い、監査報告を作成する。監事間に異なる意見がある場合には、それぞれの意見を記載する。

2 前項の監査報告には、作成年月日及び常勤の監事においてはその旨を付し、記名押印をするものとする。

3 監事は、前項の監査報告を理事長に提出する。

第5章 雑則

(監査の費用)

第17条 監事は、職務執行のため必要となる費用をこの法人に対し請求することができる。

(改 廃)

第18条 この規程の改廃は、監事全員の合意により行い、理事会に報告する。

附 則

この規程は、公益財団法人緑の地球防衛基金の設立登記のあった日（平成24年4月1日）から施行する。